



# EX-PRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

2006 Vol.  
**4**



**JSB 1000**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

Photo by H.Wakita(c)

## 全日本史上初のスーパーポールは天候不良で無効に。 ハーフウェットの公式予選を制した秋吉耕佑が今季2回目のポール獲得

シリーズ全7戦で戦われるJSB1000クラス。ここまでの3戦、優勝者は3人、大混戦となっている。昨年、圧倒的な強さを持ってタイトルを獲得した伊藤真一(KEIHIN Kohara R.T.)は今シーズン、自らのチームを立ち上げ、新しい体制でタイトル防衛をねらうことになった。新チーム設立の難しさから、シーズンオフのテストが十分ではなく、開幕戦のもてぎは10位に滑り込むのが精一杯だった。このレースは途中で雨が降り、ヒート2を制した柳川明(Team Green)が優勝した。第2戦鈴鹿2&4はJSBだけの開催だった。ここではチャンピオン伊藤が本来の強さを発揮、渡辺篤(ヨシムラスズキWithJOMO)との接戦を制した。続く第3戦筑波では、今度は渡辺が伊藤を圧倒し優勝。ポイントランキングでもトップに立った。2位でチェッカーを受けた伊藤がランキング2位、3戦連続の表彰台となった渡辺とのポイント差は9点、今後のタイトル争いが面白くなっている。

予選に先駆けて行なわれた金曜日A.R.T.合

同走行(練習走行)は天候に恵まれず、レインコンディションでの走行だった。土曜日は雨が上がり、曇り空ながらドライでの予選が予想されていたが、路面は一部濡き始めたものの完全なドライ路面とはならなかった。45分の走行が1回だけの公式予選では、全ライダーとも徐々にペースアップ、昨年、渡辺がマークしたコースレコード、1分51秒268からはおよそ10秒遅いあたりでタイム争いが展開されている。この均衡を破ったのが辻村猛(F.C.C. TSR)。最初に2分を切った。終了直前に赤旗で一時中断される場面もあったが、秋吉耕佑(ヨシムラスズキWithJOMO)が最後に辻村のタイムを更新し、公式予選での暫定ポールポジションを獲得した。

今回、全日本では初となる公式予選上位8人によるスーパーポールが開催された。これは、1台ずつがコースインし、1周のタイムアタックを行ない、その結果によって2列目までの予選順位が入れ替えられるというもので、ワールドスーパーバイク

では毎戦、鈴鹿8時間耐久レースでも恒例のイベントとなっている。計時予選8位の伊藤からスタート。伊藤は水しぶきを上げながらタイムアタック。さらに2番目にスタートした手島雄介(F.C.C. TSR)がタイムアタックするころには雨が本格的に降ってきた。さらに3番手スタートの柳川の走行時には、コースの一部が霧に覆われるなど、スタート順が遅いライダーほどコンディションが悪化していった。スタート順が最後となった計時予選トップの秋吉は、コース全体が霧で真っ白な状態だったために走行できなかった。結局、全日本史上初開催となったスーパーポールだったが、結果は無効となり、公式予選でトップタイムを出した秋吉が、今季2回目のポールポジション獲得となった。

【青木 淳】



**MFJ SUPERBIKE**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

楽しみ方いろいろ。  
**MFJ SUPERBIKE**の情報満載

2006年もGAORA(CS放送)で全戦放映!!  
地上波ローカルTV局ではダイジェストを放映!  
レース速報はMFJオンラインマガジン [mfj.or.jp](http://mfj.or.jp)  
情報満載のファンサイト [superbike.jp](http://superbike.jp) へ!!

### TIME TABLE Rd.4 AUTO POLES

09:30 -	GP-MONO 決勝レース 8Laps
10:10 -	GP125 スタート進行(選手紹介)
10:25 -	GP125 決勝レース 14Laps
11:15 -	ST600 スタート進行(選手紹介)
11:30 -	ST600 決勝レース 16Laps
12:30 - 13:25	ピットウォーク
13:45 -	JSB1000 スタート進行(選手紹介)
14:00 -	JSB1000 決勝レース 18Laps
15:00 -	GP250 スタート進行(選手紹介)
15:15 -	GP250 決勝レース 15Laps

※上記タイムテーブルは、変更されることがあります。

## 今回も渡辺篤 VS 安田毅史 の戦いとなるか!?



ST600クラスの公式予選は、不安定な路面コンディションに悩まされた。予選1回目はAグループ、Bグループともウエット。2回目は、Aグループがほぼドライ、Bグループはウエットと今回も予選グリッドは組頭取りで決まることになった。もちろんドライコンディションでアタックできたAグループのトップがポールポジションを獲得する結果となっている。2戦連続でポールポジションに着けたのは、ヨシムラの渡辺篤だった。

「バラバラ雨が降っていたけど、路面はドライコンディションだったのでリスクはあったけど

思い切ってアタックできた。今回はST600でも事前にテストできていたのがよかったんだと思う」と渡辺。前回の筑波では、JSB1000クラスとST600クラスでダブルウインを達成。ノリに乗っているだけに、このままダブルタイトルを獲得しそうな勢いだ。

その渡辺と前回、死闘を繰り広げた安田毅史は、渡辺に続く組2番手につけ、3番手グリッドからスタートする。

「もういっぱいはいですよ。全開でアタックしていると、川が流れている場所を忘れていて何度も転倒しそうになったけど、何とか1分58秒台に入ってよかった。フロントロウからスタートできますからね」と安田。ライバルのマシンが速く余裕は全くないと言うが、開幕戦、そして前回と勝てそうで勝てないレースが続いているだけに、早く勝利を手に入れたいところだ。

2番手グリッドには、Bグループでトップタイムをマークした東浦正周が着け、4番手グリッドに今シーズンからスズキを駆る奥田貴哉がつけた。「ウエットならば、いいレースができると思う。一つでも上位でフィニッシュできるように頑張る」と東浦。

渡辺と安田の戦いに、誰が絡んでくるか？ オートポリスを得意としている辻村猛、あるいは大崎誠之か？ 昨年のウイナー酒井大作か？ 宮崎敦、沼田憲保などの巧者もそろっている。誰が集団から抜け出すことができるか!?

[佐藤 寿宏]

写真(上):渡辺篤 (下):東浦正周

## 大本命は今回も横江竜司。 急成長中の高橋巧らがどこまで対抗できるか



2006年シーズンの全日本選手権は、このレースで前半戦終了という節目を迎える。ここまでの2戦では横江竜司が2連勝を達成しており、このまま横江が全勝で前半戦を終えるかどうかがこのレース最大の注目点だ。

前戦までは3戦とも天候不順で、どのチームもすでに昨年1年間に使ったレインタイヤの消費量を上回っている状況だ。そのジグスは4戦目のオートポリスも変わらず、金曜には気象庁から九州南部に梅雨入り宣言まで出されている。そ

のため金曜の練習走行、土曜の予選は雨の状況下で行なわれたが、ここでも圧勝したのは横江だった。

「僕は東北の出身ですけど、西日本にあるサーキットのほうが得意なんです」と話す横江には余裕すら感じられたが、今回の予選が少し違うのは、最後のタイムアタックで予選2位となった高橋巧が徐々に横江との距離を縮めてきたことだ。高橋巧は、ここ数戦で目を見張るほどの成長を見せており、レース関係者の間でも「巧はこれから伸びそうだ」と評価が高まっている。その高橋巧は相変わらずコメントは控えめだが、同じく急成長してきたチームメイトの小林龍太を名指して「小林くんには負けたくないです」と話す。「オートポリスでレースをするのは初めて」という宇井陽一が最後のアタックで3番グリッドを確保し、及川誠人までがフロントローに並ぶ。

気になる決勝は、絶好調の横江が最初から逃げる可能性が高い。それに対し、上記のライバルたちと、「日本GPに出たいのでいい結果を残したい」という小林、ここまで2戦はマシントラブル続きだが「このレースに賭けている」という九州共立大学に通う地元の濱本裕基、筑波で横江をあと一歩まで追い込んだラバター・ウィライロー、筑波からライディングスタイルが変わってきた高橋江紀らがどのように対抗するか注目したい。

[川岸 健二]

写真(上):横江竜司 (下):高橋巧

### ●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

[青木 淳] 『ライディングスポーツ』編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある45歳。

[佐藤 寿宏] 名前に「寿」があるため業界でのニックネームが「ことぶき」というめでたいフリーライター。全日本ロードレースは1994年の最終戦以来、ほぼ全戦を取材している。

[川岸 健二] ロードレース専門誌「サイクルサウンズ編集部」に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で7年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

# 中上 貴晶が2戦連続ポールポジション。 レース序盤にペースをつかむのは誰だ!



GP125クラスの公式予選は、雨は止んでいたものの路面はウエットコンディション。今回は、40分、1セッションのみで行われた。仲城英幸がセッションをリードしていくが、終了間際に中上貴晶が2分07秒406をたたき出して逆転。仲城英幸、菊池寛幸も2分07秒台に入れるが、中上のタイムを上回することはできず、中上の2戦連続ポールポジションが決定した。

「雨は止んでいたし、後半セッションにあった川もなくなっていた。ウエットでは、まだ詰める

部分はあるけれど、ほぼマシンは決まっている。いい感じできているので、今回もその流れを壊さないように連勝したい」と自信のコメント。

中上がオートポリスを走るの、金曜日が初めて。金曜日のコンディションも、やはりウエットコンディションだった。それだけにドライコンディションでは不安要素が多い。

「確かにドライで一度も走っていないので不安はあるけど、レースでは、どんなコンディションでも勝つ気持ちは変わらない。ウエットならば100%勝ちます」と中上。

一方、中上の独走を止める最右翼は、やはり仲城英幸だろう。「雨のオートポリスは、今回はぶっつけだったけど、いい感じで走れている。予選では、最終セクションで遅いバイクに引っかかってしまいタイムを出せなかった。ダンロップのレインタイヤもよかったし、そろそろ(中上を)止めなくちゃね」と仲城。全日本最多勝利記録に王手をかけながらも、足踏み状態が続いているだけに、早く記録を達成したいところだろう。

金曜日にトップタイムをマークしていた富沢祥也は、電気系のトラブルが発生し、6列目23番手、竹内吉弘は転倒を喫し、7列目28番手から共に追い上げを狙っていた。

レースは、序盤に誰がペースを掴むかによって展開が左右されそうだ。レインコンディションになれば仲城、菊池寛幸、葛原穂永、徳留真紀、井手敏男といったベテラン勢がペースを握りそうだ。

[佐藤 寿宏]

写真(上):中上貴晶 (下):仲城英幸

**SUPERBIKE SUPPORTERS**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

あなたの観戦スタイルにあった  
4種類のパスで、  
今年も国内最高峰の  
ロードレースをお楽しみください。

詳しくは、  
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局  
TEL : 0285-45-8465 (AM11:00~PM7:00 月曜定休)  
またはオフィシャルファンサイト [superbike.jp](http://superbike.jp) まで

**EVENT INFORMATION**  
**ライダートークショー**

往年の名ライダーや決勝レースで優勝したライダーらが登場する、恒例のライダートークライブ。ライダーの素顔に触れるHOTなイベントです。

- 場所:メインスタンド裏・イベント広場ステージ
- 時間:1)10:40~11:00/往年の名ライダー  
2)15:45~16:15/決勝レース優勝ライダー

**キャンギャルオンステージ  
APレースクイーンコンテスト**

レースクイーンが大集合!! 恒例のAPレースクイーンコンテストも開催。

- 場所:メインスタンド裏・イベント広場ステージ
- 時間:1)11:00~15:30~/キャンギャルオンステージ  
2)11:30~14:45~/APレースクイーンコンテスト

**ピットウォーク 12:30~13:25**

トップライダーをはじめ、マシンやキャンギャルとも間近で触れ合うことのできるチャンス。コース上ではキッズ/レード・マスターズランも開催。

- ピットウォークチケット¥1,500-  
(イベント広場総合案内他で販売)

**マスターズラン(ピットウォーク時に開催)**

往年の名ライダーが集結し、新型BMW[R1200S]を駆ってオートポリスを疾走する。片山義美をはじめ、平忠彦など、みなさんがご存知のライダーばかりです。

※イベント内容・出演ライダー等に変更、中止されることがあります。  
※詳細につきましては、イベント広場総合案内所にてご確認ください。

**GP-MONO**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

今シーズンから全日本格式となったGP-MONO。4ストローク 250cc単気筒エンジンをGP125クラスのフレームに搭載するという、ローコスト、イコールコンディションをコンセプトとした、入門者でも参加しやすく適度なパフォーマンスを持っているマシンによって争われる。20分間で争われるウエットコンディションの予選では、セッション開始から森 隆嘉がトップをキープ。古川 真一、13歳の高藤 一輝がそれに続く。森はセッションの終盤には2分11秒台を連発し、そのままポールポジションを獲得した。2番手は古川、3番手には最終周回で高藤をかわした16歳の吉田 弘弘が付けている。

写真:ポールポジションの森 隆嘉

ミニバイクから世界GPまで  
ロードレースのすべてがここにある

**R/DING SPORT**  
SINCE 1982

**毎月24日発売**

2006年7月号<No.282>は好評発売中!

株式会社ニュース出版

**CYCLE SOUNDS**  
EXCITING ROADSPORTS MAGAZINE

月刊サイクルサウンズは  
**毎月24日発売**

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂

**公式予選結果** ●決勝スタート/09:30~(8周)

Pos	No	Name	Time	Team
1	2	森 隆嘉	2'11.669	KRS&PLUS ONE
2	15	古川 真一	2'12.912	RATS&ライディングスポーツ
3	55	吉田 弘弘	2'13.233	Team Life・ドリーム
4	7	斎藤 一輝	2'13.400	ケンツトラストスズキ
5	3	赤間 清	2'13.456	CLUB HARC-PRO.
6	99	平石 理	2'14.100	レーシングチーム ハニービー
7	36	岳 栄一	2'14.743	チームイズミ★桃組
8	25	榊原 徹	2'16.252	ZIPBIKE豊橋ユビクツR
9	9	高橋 哲也	2'17.124	ウイニングラン
10	39	法月 多嘉夫	2'17.337	MARS&OMEG&ペアー
11	23	江 屋 学	2'18.118	プリミティブRT&レイステック
12	11	岡田 義治	2'19.661	MRF&RH松島-MSL
13	37	於保 貴久	2'20.712	チームライディングスポーツ
14	42	小沢 良美	2'21.121	バーニングブラッドRT
15	56	萩澤 雄太	2'21.291	ウルバマン&Tヨシハル&鉄馬
16	53	吉島 正治	2'23.797	RH松島&MPFSSクレイジー

2006 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 スーパーバイクレース in 九州  
GP125 Class Starting Grid

●予選日:天候/雨 路面/ウェット ●決勝コースイン/10:10 スタート/10:25(14周)

1	2'07.406 73 中上 貴晶 RS125R	2	2'07.742 2 仲城 英幸 RS125R	3	2'07.879 1 菊池 寛幸 RS125R	4	2'08.517 32 渡辺 一馬 RS125R
5	2'08.986 92 豊原 稔永 RS125	6	2'09.370 18 東 幸寛 RS125R	7	2'09.585 36 徳留 真紀 RS125	8	2'09.672 19 中村 貴紀 RS125R
9	2'10.093 7 山本 武宏 RS125R	10	2'10.197 3 井手 敏男 TZ125	11	2'10.218 14 岩田 裕臣 RS125R	12	2'10.308 111 川野 泰成 RS125
13	2'10.315 28 國吉 基寛 RS125R	14	2'10.472 15 花房 一樹 RS125R	15	2'10.509 8 山田 亮太 RS125R	16	2'10.602 21 古市 右京 RS125R
17	2'11.238 53 木口 郁瑠 RS125R	18	2'11.525 52 浪平 伊織 RS125R	19	2'12.263 76 Doni Tata Pradita TZ	20	2'12.382 12 井上 誠 RS125R
21	2'12.526 23 船田 英生 RS125	22	2'12.678 77 今中 満 RS125R	23	2'12.816 48 富沢 祥也 RS125	24	2'12.899 37 長谷川 稔 RS125R
25	2'12.967 84 橋本 齊志 RS125	26	2'13.079 17 大石 義次 TZ125	27	2'13.089 50 岩田 吉正 RS125	28	2'13.107 5 竹内 吉弘 RS125R
29	2'13.238 75 福島 宏幸 RS125R	30	2'13.578 88 石本 大河 RS125R	31	2'13.583 61 笠井 悠太 TZ125	32	2'14.469 38 天野 邦博 RS125R
33	2'14.490 45 丸山 美由貴 RS125	34	2'14.651 51 関野 洋樹 RS125R	35	2'14.917 25 山内 隆史 NER125	36	2'16.714 72 水野 那由太 TZ125
37	2'18.105 58 高橋 剛 RS125R	38	2'18.242 71 日野田 誠 RS125R	39	2'23.714 40 本田 忠昭 RS125R	40	2'24.833 31 加藤 雄資 RS125R

2006 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 スーパーバイクレース in 九州  
ST600 Class Starting Grid

●予選日:天候/雨 路面/ウェット ●決勝コースイン/11:15 スタート/11:30(16周)

1	1'58.112 76 渡辺 篤 GSX-R600K6	2	2'05.592 18 東浦 正周 YZF-R6	3	1'58.560 1 安田 毅史 CBR600RR	4	2'06.377 27 奥田 貴成 GSX-R600
5	1'59.119 3 辻村 猛 CBR600RR	6	2'06.466 11 奥野 正雄 YZF-R6	7	1'59.177 9 大崎 誠之 YZF R-6	8	2'06.483 12 寺崎 敦 YZF-R6
9	1'59.546 10 鶴田 竜二 ZX-6RR	10	2'07.090 13 稲垣 誠 CBR600	11	1'59.720 16 生形 秀之 GSX-R600K6	12	2'07.240 39 酒井 大作 ZX-6RR
13	2'00.042 6 沼田 憲保 YZF-R6	14	2'07.543 7 高橋 英倫 CBR600RR	15	2'00.613 73 森新 CBR600RR	16	2'07.974 5 寺本 幸司 GSX-R600K6
17	2'00.617 70 中山 真太郎 CBR600RR	18	2'08.277 23 藤下 和衛 CBR600RR	19	2'00.648 53 須貝 義行 749R	20	2'08.426 31 児玉 勇太 CBR600RR
21	2'00.732 22 山本 琢磨 ZX-6RR	22	2'08.683 99 野田 弘樹 CBR600RR	23	2'00.734 62 藤原 儀彦 YZF-R6	24	2'08.829 63 小橋 司 CBR600RR
25	2'00.980 32 的場 浩晃 CBR600RR	26	2'08.846 34 岩田 悟 CBR600RR	27	2'01.241 26 石川 朋之 GSX R-600	28	2'09.411 37 佐藤 裕児 YZF-R6
29	2'01.416 64 和田 憲史郎 GSX-R600K6	30	2'09.717 90 大石 正彦 YZF-R6	31	2'01.512 59 荒瀬 貴 GSX-R600K6	32	2'10.031 66 木本 康隆 CBR600RR
33	2'01.613 92 國川 浩道 YZF R-6	34	2'10.060 40 津田 一磨 CBR600RR	35	2'01.697 88 須藤 貞仁 CBR600RR	36	2'10.180 56 小室 旭 ZX-6RR
37	2'01.834 52 野崎 俊宏 CBR600RR	38	2'10.208 60 福田 康志 YZF-R6	39	2'01.867 30 津田 拓也 CBR600RR	40	2'10.222 71 武山 祐介 YZF-R6

2006 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 スーパーバイクレース in 九州  
JSB1000 Class Starting Grid

●予選日:天候/雨 路面/ウェット ●決勝コースイン/13:45 スタート/14:00(18周)

1	1'59.452 11 秋吉 耕佑 GSX-R1000K6	2	1'59.699 5 辻村 猛 CBR1000RR	3	2'00.380 12 中須賀 克行 YZF-R1	4	2'00.488 54 徳留 和樹 CBR1000RR
5	2'00.541 76 渡辺 篤 GSX-R1000K6	6	2'00.708 87 柳川 明 ZX-10R	7	2'00.736 48 手島 雄介 CBR1000RR	8	2'01.244 1 伊藤 真一 CBR1000RR
9	2'01.519 55 出口 修 CBR1000RR	10	2'01.745 2 山口辰也 CBR1000RR	11	2'01.892 10 小西良輝 CBR1000RR	12	2'02.331 13 須貝 義行 999R
13	2'03.062 9 亀谷 長純 CBR1000RR	14	2'03.171 72 Alex Camier CBR1000RR	15	2'03.567 19 畠山 泰昌 CBR1000RR	16	2'03.793 14 波多野 祐樹 GSX-R1000K6
17	2'03.896 52 柚木 伸介 CBR1000	18	2'04.437 28 東村 伊佐三 ZX-10R	19	2'04.629 41 野寄 真二 CBR1000RR	20	2'05.342 64 川上 智彦 CBR1000RR
21	2'05.532 47 本田 晃司 GSX-R1000	22	2'05.603 22 西 浩史 YZF R1	23	2'05.918 96 吉田 眞悟 CBR1000RR	24	2'06.504 31 森井 威綱 CBR1000RR
25	2'06.919 15 川瀬 裕昌 GSX-R1000	26	2'06.991 999 堀 義光 999R	27	2'07.005 29 荻田 庄平 ZX-10R	28	2'07.008 43 横張 好弘 YZF-R1
29	2'07.372 46 高津 信行 CBR1000RR	30	2'07.661 37 水澤 保 ZX-10R	31	2'07.735 65 水谷 勝 GSX-R1000	32	2'08.345 38 原田 洋孝 ZX-10R
33	2'08.634 62 向井 伸之 GSX-R1000K5	34	2'08.814 75 山崎 茂 ZX-10R	35	2'08.921 45 久野 勝己 CBR1000RR	36	2'09.486 33 野崎 浩司 ZX-10R
37	2'10.118 77 金山 和弘 GSX-R1000						

2006 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 スーパーバイクレース in 九州  
GP250 Class Starting Grid

●予選日:天候/雨 路面/ウェット ●決勝コースイン/15:00 スタート/15:15(15周)

1	2'01.070 2 横江 竜司 TZ250	2	2'01.970 72 高橋 巧 RBB250	3	2'03.290 41 宇井 陽一 TZ250	4	2'03.381 4 及川 誠人 TZ250
5	2'03.518 66 小林 龍太 RBB250	6	2'03.883 38 濱本 裕基 TZ250	7	2'04.314 7 R.WILAIROT RS250R	8	2'04.431 55 高橋 江紀 RS250R
9	2'04.988 44 秋田 貴志 TZ250	10	2'05.027 11 石井 春希 TZ250	11	2'05.224 6 秋谷 守 TZ250	12	2'05.445 76 伊藤 真樹 TZ250
13	2'05.971 51 泉本 真宏 TZ250	14	2'06.773 56 山崎 都 TZ250	15	2'06.912 10 松井 剛 TZ250	16	2'08.122 15 豊田 浩史 TZ250
17	2'08.874 16 藤田 浩司 TZ250	18	2'09.195 13 及川 玲 TZ250	19	2'09.653 17 中尾 健治 TZ250	20	2'11.443 93 遠藤 卓実 TZ250
21	2'12.570 54 坂井 貞夫 TZ250						